

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200529		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム みどりの家 水島 (1階)		
所在地	岡山県倉敷市北幸町4-5		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 14 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3390200529-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3390200529-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 5 月 19 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしています。折り紙教室・書道クラブ・書道クラブ・演芸・秋祭りのお神輿見学など地域のボランティアの方との交流を積極的に支援しています。ホーム内にて季節を感じていただけるよう、毎月季節行事を実施、誕生日にはささやかですがお祝いをしています。また、看護師配置にて職員と連携職員し健康管理を行い、入居者様・ご家族様が安全安心と思っけるよう心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経験があるだけに、当たり前なことを当たり前には思っていないホーム長が、職員とともに精一杯していこうと前向きに介護をしている姿が印象的だった。コロナ禍でも、今まで出来ていたボランティア活動や推進会議が、どうしてもできないと真摯に受けて、職員一丸となってチャレンジしている。よりステップアップしていきたい思いから、日々に活かしていく姿勢が今のこの施設に漂っている。唄を歌うレクも職員は、感染症の対応に不安を感じ、用具の消毒の徹底に時間を費やしている。地域の方とともにヒントも気づきながら、ホーム長はどう活用すればよいかと試行錯誤している。1F、2Fユニットの個性的なカラーを最大限活かし、豊富なアイデアから選んだ「トイレの神様」のイラストポスターを掲示し、トイレで利用者が神様に手を合わせているのも愛らしい姿であった。ホーム長は利用者の為に副ホーム長と力を合わせて、もっともっと職員が、情報共有出来て、ベクトルを合わせるようにと職員を生かすきと巻き込んでいる。その活力が、利用者者の笑顔を生み、ほのほのと我々に投げかけてくれた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、再確認できるよう、事務所内に掲示しているが周知徹底が出来ていない。	法人理念を各フロアの事務所に掲示している。研修の際に理念を確認することで、職員への浸透を図っている。さらに、会議の時にも理念に触れることで、身近に感じてもらえるようにしている。	経営理念を大きく掲示して、玄関にも貼ってみてはいかがですか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前には、月に一回交流会に参加しボランティアの方々と交流していた。	コロナ以前は、踊りを教えてくれるボランティアが来ていた。現在は、業者が出入りする際に、挨拶を交わしたり世間話をしたりする関係ができています。また、近隣の中学校の吹奏楽の演奏が毎日聴こえ、利用者の音楽療法となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方と会議時の交流を図るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では現状や取り組みを報告し意見を頂き、サービス向上に努めている。	以前は、介護保険課、高齢者支援センター、消防署、民生委員、家族、同法人内の職員、他のGHの職員が参加していた。入居状況、活動報告、今後の予定について話し合っている。家水島だよりの写真を大きくしたら、見やすいという意見を頂き、好評だった。	コロナ禍だからこそ、書類などを手渡しして、身近な関係を築いてみてはいかがですか。また、新しい委員を集ってみて、違う視野も広げてみてはいかがですか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことがあれば連絡・相談をしている。今後も積極的に相談をしていく様に努めたい。	窓口はホーム長が一括している。電話やFAXでのやりとりが多いが、介護保険の切り替えや情報提供の際には、出向くこともある。最近では、ワクチン注射についての問い合わせをした際に、親切丁寧に教えて頂けるくらい良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないようにしている。2ヶ月に1回、運営推進会議と同時に身体拘束委員会を開催している。	運営推進会議の中で身体拘束についての報告をしている。スピーチロックなどの具体的な例を用いたり、ネットで事例を検索したものを取り入れたりして、研修に活かしている。利用者と接する際には、スピーチロックにならないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い虐待防止に努めている。また職員のストレスにも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への研修が不十分であり今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、家族の理解・納得を頂いてから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見を頂くようにしている。また、国保連への連絡方法を掲示している。寄せられた意見は真摯に受け止め対応している。	家族には、お便りや作品を送り、本人の状況を把握して頂いているから、最近の様子について知ることができるとともに、意見が聞きやすくなっている。リハビリに力を入れてほしいとの要望があり、密に配慮して、リビングの中で歩行訓練を実施した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスを行っている。問題点や統一すべきことを話し合いケアの向上に努めている。	職員から消毒の時間帯についての意見があり、時間帯を変えることでスムーズに消毒が行えるようになった。食事や休憩時間をずらすことで、職員が円滑に業務・運営ができるように工夫している。何かあれば、ホーム長が職員から話を聞くこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、要望・不満を聞き働きやすい職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。事業所内での研修も設けスキルアップを図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とコミュニケーションを図りながら、要望・不安を伺い希望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等、ご家族の思いを傾聴し、対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に心身の情報・生活歴を伺いホームの生活に慣れていただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉かけを大切にし、家庭的な温かい関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時様子を伝え、家族とコミュニケーション作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時にもご家族に伝え、自由に面会又は外出など声掛けを行っている。	現在は、窓越し面会を実施している。リビングで職員と利用者がお茶を飲みながら会話を楽しんでいた。職員が帰る際には、「お疲れ様」と言って手を振ってくれたり、外から帰ってきたら「おかえり」と言ってくれたりするくらい、GHが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がコミュニケーションを図れる場所を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薫風会のグループ内で多様なサービスを提供できるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム側のスケジュールを無理に強要しないよう、意思を尊重している。	日頃の様子を観察や言葉掛けをして、把握するようにしている。出た要望は、会議にて職員間で共有している。食事を居室で食べたいという利用者の要望を叶えた。また、話をされない方には、表情や仕草などのノンバーバルな部分から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中で趣味など情報を知り努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に特変事項等記録し心身の状態の把握に努め情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を尋ね、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	毎月1回、評価表を基にカンファレンスを行い、各担当職員が家族からの意見や要望、職員間で出た意見やアイデアだけでなく、主治医や看護師の意見もケアプランに反映させている。日々モニタリングを行い、利用者に変化があればその都度見直し、家族からの意見は電話で聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を小まめ記録し、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で取り組んでいるが、臨機応変に対応できるよう心掛けが必要となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしたり、地域の交流会に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診を行っている。急変時は速やかに受診の対応をとっている。	かかりつけ医はほとんどの方が転医される。他科への受診は、家族と職員が同行する場合もある。月に1回、歯科衛生士が来て、入れ歯の状態確認や口腔ケアの指導を行ってくれる。またドクターからの意見をケアプランに反映させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に状態を報告し、相談・助言をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常的にワーカーや看護師と連携を図っている。入退院時もスムーズに対応できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていない。介護医療の必要性が高まった場合は、法人内の事業所で対応してもらえるよう調整する。	入居時に、利用者や家族に出来ること・出来ないことを明確に説明し、重度化した場合の同意書を交わしている。重度化した場合は家族に関連施設の提供を促したり、密に報告・連絡しながら、利用者・家族にとって最良の方針を決定している。重度化した場合の介護ケアについては研修を実施して身につけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。定期的に研修を行い、対応方法を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年に2回訓練している。スプリンクラーや防災設備を整えている。	年2回火災訓練を夜設定で実施した。事務所に連絡網を掲示し、避難経路は東側の窓側へ避難するようにしている。防災マニュアルも整備して、面談室に置いてある。備蓄は、水やお菓子を3日分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の温度差があり、親しすぎる声掛けの場面もみられ、周知徹底出来ていない。	呼称は苗字に「さん」付けをしている。入室時には必ず言葉掛けとノックをしてから入室するようにしている。接遇研修を行い、言葉遣いや電話対応について学びを深めた。岡山弁で話をするとニコニコしてくれる利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし、自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるよう心掛けているが、時に職員のペースになることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できているが、おしゃれは衣類の自己決定にしかできていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はリビングで一緒に摂取しているが、準備は職員が行い、一部の入居者の方にお盆を拭いてもらっている。	給食会議を月1回開催し、季節感を味わえるものを出してほしいとの要望を伝えたら、メニューが提供された。法人内の厨房で作ったものが食卓に並ぶ。誕生日には、デコレーションケーキにフルーツを添え、厨房から週3回提供されるおやつが利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は記録に残し、水分の少ない方は、こまめに水分を食事量が少ない方は検討しご家族様の了解を得て補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアをして頂き、困難な方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導、様子からのサインに気付きその都度誘導しているが、排泄パターンを把握することが困難で、紙パンツ等減らす事が出来ていない方もおられます。	各フロアに3ヶ所あり、トイレの神様を掲示することで、利用者は気持ちよく排泄することができている。排泄チェック表を活用した結果、パットの使用枚数を減らせたこともある。日中はトイレ誘導を基本とし、夜間は各利用者に合わせて対応している。泌尿器科とも連携し、薬の調整もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操参加の声掛けと医療との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上、曜日は決めているが希望があれば随時対応している。	週2回の入浴を基本とし、個別対応をしている。利用者の希望に合わせて、曜日や時間の変更、同性介助も可能としている。また、清拭・足浴・シャワー浴にも対応しており、冬にはゆず湯を楽しんで頂いている。浴槽には半数以上の方が浸かっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況や体調に合わせて休んでいただいている。定期的に布団干し・シーツ交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法・容量は理解できているが、より把握に努めなければいけない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割・楽しみごと・気分転換は個々に合わせた支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方との支援は行っていない。散歩は天候や時季により支援が出来ていない。散歩は健康維持・楽しみに繋がるため今後は計画し実行しなければいけない。	広いリビングを活かして、散歩がてら、飾られた写真を見に行くようにしている。正月に人がぐれる鳥居を作り、お賽銭やお参り、おみくじを引くことで外出した気分を味わった。ホーム長が外で咲いていた花を写真に撮り、利用者に見せたところ喜ばれた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持たれている方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話の取り次ぎ、はがきの投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房を完備し、必要に応じて使用し、室温換気などにも気をつけている。壁面に季節感を感じる作品を入居者と一緒に作成している。	訪問した時間帯がちょうどティータイムであり、利用者はゆっくりまったりとお茶を飲んで過ごし、評価員に対して元気よく手を振って出迎えてくれた。窓を開けると春には満開の桜の木が見え、夕方になると、近隣にある中学校の吹奏楽部の演奏が聴こえ、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が、くつろげる空間を提供している。入居者間でトラブルにならないよう席順を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご本人の使い慣れたものを持参していただき居心地よく過ごしていただいている。	備え付けは、エアコン、カーテン、照明。利用者は、居室で好きな本を読んだり、編み物や折り紙を作ったりして自分らしく過ごしている。壁面には、利用者自身が作成したカレンダーが貼ってあり、季節感を醸し出していた。清掃も行き届いていて、清潔で、綺麗な居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の現状の把握を行い、安全で可能な限り自立した生活が送れるように努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200529		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム みどりの家 水島 (2階)		
所在地	岡山県倉敷市北幸町4-5		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 14 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200529-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200529-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 5 月 19 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしています。折り紙教室・書道クラブ・書道クラブ・演芸・秋祭りのお神輿見学など地域のボランティアの方との交流を積極的に支援しています。ホーム内にて季節を感じていただけるよう、毎月季節行事を実施、誕生日にはささやかですがお祝いをしています。また、看護師配置にて職員と連携職員し健康管理を行い、入居者様・ご家族様が安全安心と思っけるよう心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経験があるだけに、当たり前なことを当たり前にはしていないホーム長が、職員とともに精一杯していこうと前向きに介護をしている姿が印象的だった。コロナ禍でも、今まで出来ていたボランティア活動や推進会議が、どうしてもできないと真摯に受けて、職員一丸となってチャレンジしている。よりステップアップしていきたい思いから、日々に活かしていく姿勢が今のこの施設に漂っている。唄を歌うレクも職員は、感染症の対応に不安を感じ、用具の消毒の徹底に時間を費やしている。地域の方とともにヒントも気づきながら、ホーム長はどう活用すればよいかと試行錯誤している。1F、2Fユニットの個性的なカラーを最大限活かし、豊富なアイデアから選んだ「トイレの神様」のイラストポスターを掲示し、トイレで利用者が神様に手を合わせているのも愛らしい姿であった。ホーム長は利用者の為に副ホーム長と力を合わせて、もっともっと職員が、情報共有出来て、ベクトルを合わせるようにと職員を生かすきと巻き込んでいる。その活力が、利用者笑顔を生み、ほのほのと我々に投げかけてくれた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	<b>有限会社アウルメディカルサービス</b>			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、再確認できるよう、事務所内に掲示しているが周知徹底が出来ていない。	法人理念を各フロアの事務所に掲示している。研修の際に理念を確認することで、職員への浸透を図っている。さらに、会議の時にも理念に触れることで、身近に感じてもらえるようにしている。	経営理念を大きく掲示して、玄関にも貼ってみてはいかがですか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前には、月に一回交流会に参加しボランティアの方々と交流していた。	コロナ以前は、踊りを教えてくれるボランティアが来ていた。現在は、業者が出入りする際に、挨拶を交わしたり世間話をしたりする関係ができています。また、近隣の中学校の吹奏楽の演奏が毎日聴こえ、利用者の音楽療法となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方と会議時の交流を図るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では現状や取り組みを報告し意見を頂き、サービス向上に努めている。	以前は、介護保険課、高齢者支援センター、消防署、民生委員、家族、同法人内の職員、他のGHの職員が参加していた。入居状況、活動報告、今後の予定について話し合っている。家水島だよりの写真を大きくしたら、見やすいという意見を頂き、好評だった。	コロナ禍だからこそ、書類などを手渡しして、身近な関係を築いてみてはいかがですか。また、新しい委員を集ってみて、違う視野も広げてみてはいかがですか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことがあれば連絡・相談をしている。今後も積極的に相談をしていく様に努めたい。	窓口はホーム長が一括している。電話やFAXでのやりとりが多いが、介護保険の切り替えや情報提供の際には、出向くこともある。最近では、ワクチン注射についての問い合わせをした際に、親切丁寧に教えて頂けるくらい良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないようにしている。2ヶ月に1回、運営推進会議と同時に身体拘束委員会を開催している。	運営推進会議の中で身体拘束についての報告をしている。スピーチロックなどの具体的な例を用いたり、ネットで事例を検索したものを取り入れたりして、研修に活かしている。利用者と接する際には、スピーチロックにならないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い虐待防止に努めている。また職員のストレスにも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への研修が不十分であり今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、家族の理解・納得を頂いてから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けて、意見を頂くようにしている。また、国保連への連絡方法を掲示している。寄せられた意見は真摯に受け止め対応している。	家族には、お便りや作品を送り、本人の状況を把握して頂いているから、最近の様子について知ることができるとともに、意見が聞きやすくなっている。リハビリに力を入れてほしいとの要望があり、密に配慮して、リビングの中で歩行訓練を実施した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスを行っている。問題点や統一すべきことを話し合いケアの向上に努めている。	職員から消毒の時間帯についての意見があり、時間帯を変えることでスムーズに消毒が行えるようになった。食事や休憩時間をずらすことで、職員が円滑に業務・運営ができるように工夫している。何かあれば、ホーム長が職員から話を聞くこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、要望・不満を聞き働きやすい職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。事業所内での研修も設けスキルアップを図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とコミュニケーションを図りながら、要望・不安を伺い希望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等、ご家族の思いを傾聴し、対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に心身の情報・生活歴を伺いホームの生活に慣れていただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉かけを大切にし、家庭的な温かい関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時様子を伝え、家族とコミュニケーション作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時にもご家族に伝え、自由に面会又は外出など声掛けを行っている。	現在は、窓越し面会を実施している。リビングで職員と利用者がお茶を飲みながら会話を楽しんでいった。職員が帰る際には、「お疲れ様」と言って手を振ってくれたり、外から帰ってきたら「おかえり」と言ってくれたりするくらい、GHが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の入居者様が入居される際には情報を検討し、慎重に席順を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薫風会のグループ内で多様なサービスを提供できるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム側のスケジュールを無理に強要しないよう、意思を尊重している。	日頃の様子を観察や言葉掛けをして、把握するようにしている。出た要望は、会議にて職員間で共有している。食事を居室で食べたいという利用者の要望を叶えた。また、話をされない方には、表情や仕草などのノンバーバルな部分から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中で趣味など情報またご家族様からの情報を知り対応に努めてい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に特変事項等記録し心身の状態の把握に努め情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を尋ね、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	毎月1回、評価表を基にカンファレンスを行い、各担当職員が家族からの意見や要望、職員間で出た意見やアイデアだけでなく、主治医や看護師の意見もケアプランに反映させている。日々モニタリングを行い、利用者に変化があればその都度見直し、家族からの意見は電話で聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア結果を話し合い、次の目標に向けて相談をおこなっている。向上のためにも記録をもう少し取るようにしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で取り組んでいるが、臨機応変に対応できるよう心掛けが必要となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしたり、地域の交流会に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診を行っている。急変時は速やかに受診の対応をとっている。	かかりつけ医はほとんどの方が転医される。他科への受診は、家族と職員が同行する場合もある。月に1回、歯科衛生士が来て、入れ歯の状態確認や口腔ケアの指導を行ってくれる。またドクターからの意見をケアプランに反映させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に状態を報告し、相談・助言をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常的にワーカーや看護師と連携を図っている。入退院時もスムーズに対応できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていない。介護医療の必要性が高まった場合は、法人内の事業所で対応してもらえるよう調整する。	入居時に、利用者や家族に出来ること・出来ないことを明確に説明し、重度化した場合の同意書を交わしている。重度化した場合は家族に関連施設の提供を促したり、密に報告・連絡しながら、利用者・家族にとって最良の方針を決定している。重度化した場合の介護ケアについては研修を実施して身につけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。読み合わせは実施しているが、ロールプレイングなど実地研修が出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年に2回訓練している。スプリンクラーや防災設備を整えている。	年2回火災訓練を夜設定で実施した。事務所に連絡網を掲示し、避難経路は東側の窓側へ避難するようにしている。防災マニュアルも整備して、面談室に置いてある。備蓄は、水やお菓子を3日分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の温度差があり、親しすぎる声掛けの場面もみられ、周知徹底出来ていない。	呼称は苗字に「さん」付けをしている。入室時には必ず言葉掛けとノックをしてから入室するようにしている。接遇研修を行い、言葉遣いや電話対応について学びを深めた。岡山弁で話をするとニコニコしてくれる利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし、自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるよう心掛けているが、時に職員のペースになることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できているが、おしゃれは衣類の自己決定にしかできていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事を準備する際、一部の方ではあるが、野菜の皮むきなど簡単な作業を手伝っていただいている。	給食会議を月1回開催し、季節感を味わえるものを出してほしいとの要望を伝えたら、メニューが提供された。法人内の厨房で作ったものが食卓に並ぶ。誕生日には、デコレーションケーキにフルーツを添え、厨房から週3回提供されるおやつが利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は記録に残し、水分の少ない方は、こまめに水分を食事量が少ない方は検討しご家族様の了解を得て補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアをして頂き、困難な方は職員が介助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導、様子からのサインに気付きその都度誘導しているが、排泄パターンを把握することが困難で、紙パンツ等減らす事が出来ていない方もおられます。	各フロアに3ヶ所あり、トイレの神様を掲示することで、利用者は気持ちよく排泄することができている。排泄チェック表を活用した結果、パットの使用枚数を減らせたこともある。日中はトイレ誘導を基本とし、夜間は各利用者に合わせて対応している。泌尿器科とも連携し、薬の調整もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操参加の声掛けと医療との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上、曜日は決めているが希望があれば随時対応している。	週2回の入浴を基本とし、個別対応をしている。利用者の希望に合わせて、曜日や時間の変更、同性介助も可能としている。また、清拭・足浴・シャワー浴にも対応しており、冬にはゆず湯を楽しんで頂いている。浴槽には半数以上の方が浸かっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況や体調に合わせて休んでいただいている。定期的に布団干し・シーツ交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法・容量は理解できているが、より把握に努めなければいけない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割・楽しみごと・気分転換は個々に合わせた支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方との支援は行っていない。散歩は天候や時季により支援が出来ていない。散歩は健康維持・楽しみに繋がるため今後は計画し実行しなければいけない。	広いリビングを活かして、散歩がてら、飾られた写真を見に行くようにしている。正月に人がぐれる鳥居を作り、お賽銭やお参り、おみくじを引くことで外出した気分を味わった。ホーム長が外で咲いていた花を写真に撮り、利用者に見せたところ喜ばれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持たれている方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房を完備し、必要に応じて使用し、室温換気などにも気をつけている。壁面に季節感を感じる作品を入居者と一緒に作成している。	訪問した時間帯がちょうどティータイムであり、利用者はゆっくりまったりとお茶を飲んで過ごし、評価員に対して元気よく手を振って出迎えてくれた。窓を開けると春には満開の桜の木が見え、夕方になると、近隣にある中学校の吹奏楽部の演奏が聴こえ、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が、くつろげる空間を提供している。入居者間でトラブルにならないよう席順を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご本人の使い慣れたものを持参していただき居心地よく過ごしていただいている。	備え付けは、エアコン、カーテン、照明。利用者は、居室で好きな本を読んだり、編み物や折り紙を作ったりして自分らしく過ごしている。壁面には、利用者自身が作成したカレンダーが貼っており、季節感を醸し出していた。清掃も行き届いていて、清潔で、綺麗な居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が迷い混乱されないように各居室・トイレ・浴室など名称があり、また手すりを設置し安全面も工夫している。		